岐阜農林事務所の普及活動状況

令和３年２月２５日

今月の重点活動

■スマート農業　第７回コンソーシアム会議を開催

【リモート会議の様子】

瑞穂市の（農）巣南営農組合では、国のスマート農業加速化実証プロジェクトの採択を受けて、スマート農業機械（ロボットトラクタ、ドローン等）を駆使しながら輸出用米と小麦を組合せた３年５作体系の現地実証に取組んできた。

２月３日、２ヶ年の実証成果について検討するため、コンソーシアム会議が開催され、農業普及課から各種調査結果の報告を行った。当日は、コロナ禍の中でリモート会議となったが各種スマート農業機械の作業効率や実証法人における経営成果について協議を行い、スマート農業機械は作業効率の向上や新たなオペレーター育成に有効であるとの結論に至った。

今後、農業普及課では２ヶ年の実証成果について、管内の農業法人や大規模農家に情報提供を行いスマート農業の推進を図っていく。

（地域支援第三係・松本　政行）

多様な担い手づくり

■担い手　農家による出前講座を開催（岐阜農林高等学校）

【出前講座の様子】

２月２日、岐阜農林高等学校にて、森林科学科１年生39名を対象に出前講座を開催した。

初めに、農林事務所から今回実施する出前講座の説明をするとともに、県農業大学校、県立国際園芸アカデミーの概要を紹介した。

出前講座では、環（わ）の森　横田尚人氏が、「次世代へ残す循環型の里山活用と放牧活用型畜産」のテーマで講演された。

講演では、しいたけ栽培を始めた経緯、再生可能な栽培（ほだ木生産から）への取り組みや、後継者とともに牛の林間放牧をやりたいと将来の夢について語られた。講演後、森林科学科の学生と活発に意見交換もされ、有意義な講座となった。

農業普及課では、今後も学生に農業者の生の体験、思いに触れる機会を提供していく。

（地域支援第一係・山田　和彦）

■いちご　法人化相談を実施（各務原市）

【相談の様子】

２月12日、いちご生産者２名について、岐阜県農業会議の協力のもと、個別に法人化相談を実施した。

今回の相談では、将来の事業展開や、現状の経営状況などを本人から聞き取り、法人化した際のメリットなどについて助言した。

今後、全農ぎふいちご新規就農者研修所の卒業生を中心に相談が増えてくることが予想される。

農業普及課では、相談者の経営が良い方向に進むことを最優先に、関係機関と連携して慎重に支援をしていく。

（園芸産地支援第二係・三和　浩一）

売れるブランドづくり

■だいこん　ぎふ清流ＧＡＰ評価の取組始まる

【帳票の確認を行う職員】

岐阜県ＧＡＰ制度終了にともない、ＧＡＰの取組を続けるため、ＪＡぎふ大根部会では、２月 10 日及び２月 18 日にぎふ清流ＧＡＰセンター職員による組織・施設評価および農場評価を受けた。清流ＧＡＰ評価制度は、ＧＨ評価に準じており、県ＧＡＰには無かった項目が追加されているため、事務局・農業者ともに 12 月から準備を進めていた。結果については５月に判明する。

農業普及課では、新制度の情報共有や内部点検等の支援を行っており、今後もＧＡＰの取組を推進していく。

（園芸産地支援第一係・横田　京子）

■糸貫トマト振興会　ＪＧＡＰ認証に向け自己点検中

【作業室仕切改善の様子】

本巣市の糸貫トマト振興会では、会員９名のうち４名がＪＧＡＰ認証を受けており、今月は２名の認証者が審査を受けて更新手続きを行った。同振興会では更に２名の生産者が新規認証に向け、県のＧＡＰチャレンジ推進支援事業を活用して作業室の仕切りや LED 取付工事を施工したり、農場管理の作業手順書を作成したりして、自己点検と改善を行った。

今後も、農業普及課ではＪＧＡＰ認証支援を通して、生産者の記録と検証と自己点検を支援し、信頼される農場づくりを推進する。

（地域支援第三係・山田　奈巳）

■ブロッコリー　春ブロッコリー研修会の開催

【研修会の様子】

２月９日、ＪＡぎふ西郷支店において、西部地域春ブロッコリー研究会の令和３年度作に向けた研修会が開催された。今作から収穫時期の前進化を目指して２月定植に取り組む生産者が増えたため、例年より早い時期の開催となった。

農業普及課からは、前進化のために導入する新しい品種の特徴と栽培管理上の注意点を中心に説明し、気温が低い時期の定植となるため、活着や初期生育が順調に進むように丁寧な管理作業を行うよう指導した。

引き続き、品質の良いものが収穫できるよう支援をしていく。

（地域支援第一係・鈴木　郁子）